

公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

名古屋掖済会病院																					
【地域において今後担うべき役割】（P5）																					
<p>ア．緊急性の高い救急医療については、名古屋市内外の広域からの患者受入れも含めて、適切な連携体制の一翼を担うべく、現在の機能を維持・強化する。</p> <p>イ．構想区域内の南西部エリアの医療体制を強力に支える。特に中川区における唯一の高度急性期病院として、地域における他の医療機関、診療所、介護施設等との連携を密にし、先進医療や悪性腫瘍治療などの高度医療の提供を継続する。</p> <p>ウ．さらに、地域での在宅医療のウェイトが高まるとみられるなかで、平成29年12月に開設した「地域包括ケア病棟」を、在宅療養中に急性増悪した患者を受け入れる『在宅救急機能』を果たす病棟と位置付け、地域包括ケアシステムの一翼を担う。</p>																					
【今後持つべき病床機能】（P5）																					
<p>ア．現在の高度急性期、急性期病床は、当院が担うべき救急医療や地域連携体制における役割を果たすうえで、現状程度の維持は必要である。ただし、中長期的には、必要に応じた規模の適正化の検討も視野に入れておく。</p> <p>イ．29年12月に開設した当院の「地域包括ケア病棟」には、急性期機能が不可欠と考えている。ただし、地域や患者のニーズに弾力的に対応する必要もあることから、地域における在宅医療の進展状況や病棟の稼働実績を常に検証のうえ機能させてゆく予定。</p>																					
【今後の方針】（P6）																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在 (平成28年度病床機能報告)</th> <th></th> <th>将来 (2025年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>379</td> <td rowspan="5">→</td> <td>379</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>204</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>602</td> <td>602</td> </tr> </tbody> </table>		現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)	高度急性期	379	→	379	急性期	204	204	回復期	0	0	慢性期	19	19	(合計)	602	602
	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)																		
高度急性期	379	→	379																		
急性期	204		204																		
回復期	0		0																		
慢性期	19		19																		
(合計)	602		602																		

【その他の数値目標】（P7）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85%（退院数除き）
- ・ 手術室稼働率：60%
- ・ 紹介率：70%
- ・ 逆紹介率：90%

経営に関する項目

- ・ 人件費率：52%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：未定